

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0514 ◆◆◆

18/12/19

【 2018 年の為替・金融業界 10 大ニュース 】

今年も残り 10 日ほどになった。そこで少し早いが、今回の当レターでは年末恒例である筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10 大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランクインしているだろうか。

◎金融の個人的トップニュースは「仮想通貨バブルの崩壊」

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10 大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで簡単な解説や講評などを記してみたい。

- 1; 仮想通貨(=暗号資産)のバブル崩壊、ビットコインは最高値 2 万ドル近くから 3000 ドル台へ
 - 2; ドル/円は 2 年連続の記録的小変動、対照的にトルコリラなど一部新興国通貨は大荒れ
 - 3; 大阪で震度 6 弱、北海道で震度 7 など、大地震が今年も頻発
 - 4; 米国による対中を中心とした貿易戦争が激化
 - 5; 史上初の米朝首脳会議が開催される
 - 6; NYダウが一時史上最高値を更新
 - 7; 米国、イラン核合意からの離脱やINF全廃条約破棄など今年も「我が道」を行く
 - 8; 西日本豪雨ならびに、大型台風が襲来し関空は冠水
 - 9; 「徴用工判決」や「慰安婦財団解散」などで日韓関係が過去最悪の様相に
 - 10; EU、英国の離脱協定を正式決定
- 番外; 「日大アメフト部の危険タックル問題など、スポーツ関係で不祥事相次ぐ」、「平昌五輪で冬季最多の 13 メダルを獲得」、「埼玉県熊谷市で 41.1 度を観測、激しい酷暑」、「仮想通貨交換業者コインチェックで 580 億円の資金流出が発生」、「豊洲市場が開場」、「自民党総裁選で安倍首相が 3 選果たす」、「ノーベル医学生理学賞に本庶佑・京都大特別教授」、「日産自動車のゴーン会長が逮捕される」、「米国で中間選挙を実施、下院は民主党が制し、「ねじれ症状」発生へ」——(順不同)

——今年も、幾つかの意味でバラエティーに富んだ内容となった。ただ、非常に大きく分ければ 4 つに分類できるだろう。すなわち、メインとなる「金融」、そして「世界情勢」、好悪取り混ぜた「スポーツ」、さらには「自然災害」だ。

「金融」については、先週もレポートしたように、「ドル/円は 2 年連続の記録的小変動」となっただけでなく、ユーロやポンドも総じて動意が鈍いという珍しい一年になった反面、仮想通貨は年間を通して大荒れ。代表格であるビットコインだけでなく、イーサリアムやリップル、ビットキャッシュなどもかなりの乱高下をたどっている。それが良かったのかどうかという話は別にして、為替市場に携わるひとりとしては、ある意味羨ましいほどのマーケットのボラティリティを記録していた。

一方、「世界情勢」は昨年に続き、4 位あるいは 7 位に選んだように今年もランプ・ファクター絡みの話がメインながら、10 位とした「英国のEU離脱」絡みのニュースやイタリアの財政問題やフランスやドイツでは政権不安が台頭するなど、欧州全般で気になる要因も少なくなかった。これらの多くは、取り敢えず来年の前半へと持ち越しとなるだけに、欧州通貨の動きには今後も注意が必要かもしれない。

そのほか、個人的には今年ほど驚くほどの「自然災害」が日本各地で多発したことも珍しかったのではないと思う。地震だけでなく記録的な豪雨や台風、激しい酷暑などそれぞれを個別に考えるのではなく、すべてをあわせた結果とすれば、1 位にランクインするほどのインパクトだったのではなかろうか。

ともかく、来年の途中で日本は 30 年続いた「平成」が終わり「新元号」へと切り替わる。そうした状況下、相場を取り巻く環境もさることながら、「政治経済」や「世界情勢」、また今年のような酷い「自然災害」に見舞われることのないよう、良いニュースばかりの一年になることを是非とも祈念している。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

